

10月初旬、和歌山県
北東部の町、高野町に
旅する。高野山真言宗
の聖地高野山を中心と
する町で、貴重な文化
財・建造物・名所が数

フィールド風 (現場)からの風

多く存在する。2004年には「紀伊山地の霧場と参詣道」として世界遺産に登録され、日本のみなみの世界中から多くの観光客が訪れてくるとの情報が訪れた理由だった。精神的には旅行プランの企画は容易だったが、自家用車で予定した初めての訪問地での往復1000キロを超す旅程に不安を感じたことも事実だ。

既存道路を大規模に改良した道路状況には、全く対応できず大混乱に。遠方に旅する時に、「新しいデータ」といは痛感した。現在のように交通が開けていてもトラブルがあるのに、道路が開けるまでは難

旅することで、改めて考え方をされることは多い事を体験してみませんか。

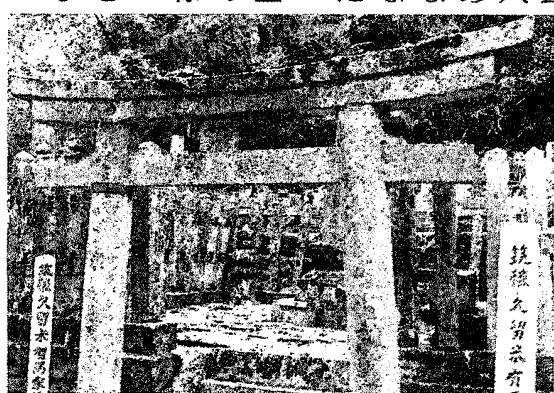
行苦行の連続だったのだ。
だろう。

みると少し趣が異なつてゐる。「参」を使った言葉には、参宮・参拝などあるが、これはは全て「拝む」「折る」という行動的である。しかし「禮」を使った「参詣」は、到着のみを目的にした

1つは、永遠の生命と呪力を持った弘法大師の御廟にもうでて、その功德利益を受け事、もう1つは、山岳靈場である高野山に納骨し、もしくは位牌を立てて、死者の靈を鎮魂供養する事だった。

長など多くの供養塔を見ていくと、歴史そのものが見えてくるようになつてゐる。

また企業のパナソニック・クボタ・など、の供養塔や関東大震災や関西大震災、東北地方震災の供養塔、韓国人のお墓もあるなど、單なる墓地でない雰囲気には……。



確かに奥の院には、
十万基を超える名時半
の人々の墓碑や供養塔
が2キロ近くの距離の
に立ち並んでいる。美
我兄弟・平敦盛・大畠

長など多くの供養塔を見ていくと、歴史そのものが見えてくるようになつてゐる。

また企業のパナソニック・クボタ・など、の供養塔や関東大震災や関西大震災、東北地方震災の供養塔、韓国人のお墓もあるなど、單なる墓地でない雰囲気には……。

圧制される。初めて見
聞きする信州の強さを
感じた旅でもあった。（NPO法人信州地域
社会フォーラム理事・
森上白馬村）